

津田昇平教話 第二話

令和三年一月二日 朝の教話

拜むのを聞いて習うというような心になれ

ば、おかげがあるぞ。

おはようございます。令和三年一月二日をお迎えいたしました。

越年祭、元日祭と、お話をする機会が続いておりますね。その中で、
こう話を、何をさせてもらってるかっていうと、信心の稽古けいこっていうこと
とをよく口にしてるなあと思うんですよ。教祖様がお広前ひろまへのことを「氏子
の願ねがい礼場所れいばし、信心の稽古場所」と、こう残しておられますね。あ
まりそれを、意識して意識してって訳ではないんですけども、でも、
気がついたらそういうお話をよくしてるなあと思って。

まあこれまで、自分なりの信心をさせてもらってきて、やっぱり稽古
やったんやなあ、ということをお話するんですよ。

で、教祖様は、拝むということと、話を聞いて助かるということとを、少しづつ、区別をされる。「この神様は、拜んで助かる神様ではない。話を聞いて助かる神様である」と、一つづつ理解なさっておりますね。

あなたの信心一つで、おかげは受けられる。この神様は、拜んで助かる神様ではない。話を聞いて助かる神様である。心で何でも願えば、おかげをくださる。

(理Ⅱ 角南佐之吉 すなみさのきち 一より抜粋)

と、一つづつ理解されております。

「拜んで助かる神様ではない」まあ昔の時代ですから、皆さん今の時代よりもきつと、信心熱心やったと思うんですよね。皆、つじがみさま氏神様をお参りさしてもろうたり、仏様を拜んだり、四国の八十八か所を巡ったり、皆一生懸命ですよね。伊勢いせやら熊野くまのやらに一生懸命、命がけでお参りされるという方もたくさんおられました。

でも、そういう中でも、皆それぞれに信仰を持って信心生活してても、やっぱりおかげにならん。立ち行かん、助からん。そういう中で、金光様のお広前ひろまへに参らして頂くことになる。

で、最初は拜んでもらおうと。金光様、お徳があるんやったら拜んでもらおうと。で、お参りして自分が拜んだらおかげになるとか。まあそ

う考えているわけですね、みんな。そういう信心のあり方しかありませんでしたから。ところが天地金乃神様は、てんちかねのみさまそういうことは求めておられない。むしろ、そんなんじゃないと。そんなんはもうええんや、と。

「このお道の神様は、拜んで助かる神様ではない。話を聞いて助かる神様である」と仰る。まあちょっと語弊ごへいがありますけどね。拜んで助かる神様じゃない言うたかて、こう、拜まんでええって言うてることじゃないです、これね。「拜みさえしとったら、そんでええんやろ」っていうふうな、まあそういう考え方ですわね。拜んでもらったらそれでいい、自分が拜んだらそれでいい、そういうもんじゃないんです。

「金光様」言つて、金光様んどこ行って「拜んで下さい」って。ま、祈禱屋きとうや

ですよ。自分に成り代わって祈ってくれはる。神様と繋がりが深いから、祈ってくれはったらそんで助かるんやろ。そういうのんではない、と。

自分が神様に拜んで、そして助かる。いやそれだけでもない。まあそれはそれで、ほんとは大事なんですけど。

一番肝心なのは、話を聞いて、そしてそれを理解して、合点がたって、そこを大切にしてお器を作って、そして初めて助かるっていう、そういう神様なんですよね。

違うご理解では、「拜むのを聞いて習う」という心になねば、おかげがある。「拜むのを」つまり拜むのを止めて、^やっていいですよ、いいですよ。

うたら。「拝んだらおかげ頂けんねんやろ」「拝みさえしたらそんでええんやろ」「じゃ、これもう祈念きねん、祈念は自分が祈念でしようね。祈禱きとうってまあ祈禱、祈ってもらうんでしような。

拝むのを止めて、拝むのを聞いて習う。やっぱり習い事なんですよ。「聞いて習うという心になれば、おかげがあるぞ」と、金光様仰ったと。で、続いて「言うことを聞かねば、おかげがないぞ」とも仰ってるんですよね、これね。

拝むのを聞いて習う。私で言うたら、カッパで「拝むのを（止めてや）」ですよ。

拜むのを聞いて習うというような心になれば、おかげがあるぞ。(中略)言うことを聞かねばおかげがないぞ。

(理 I 市村光五郎 三・三九より抜粋)
いちむらみつごろう

「言うことを聞かねば」っていうのは、つまりこう、話をしていることを、聞いて習うということとをせずに、教えてもらったこととは全然関係のないことをする。そうすると、おかげを頂くことはできません。これ脅迫きせいかんしてるんじゃないかって、ほんとのこと言ってるんです。

なんで自分が立ち行かんのか、おかげにならんのかって、道理どわりで考えたら至って簡単で、おかげを頂く器が自分の中に出来てないだけの話

でしょ。だから、聞いて習わんといかん。習うっていうのは稽古けいこする
とでしょ。復習、反復練習。

ま、塾に行ってもピアノに行っても、習いますでしような。うん。習
って、聞いて、教えてもらって、そして習う。でもまあ、どんなに行っ
て、塾に行こうが、ピアノを習いに行こうが、聞いて習うって、習うっ
てことは、結局真似まねをして、稽古するんでしようけど。それをせずに、
教えてもらったことと全然違うこと、「言うことを聞かない」「って言葉が
ありますわね。「いじするんだよ」「ああするんだよ」って言っても、全
然ちゃうことをする。いじいじの、言うことを聞かない、話を聞いてな
いっていじいじだよ。

言うつことを聞かない、と。つまり我流がりゅうになつとるわけですよ。もっと言うたらまあ、ただ拜んでるだけになりますわね、信心で言うたら。拜む、あるいは「祈祷してよ」と。「拜んでよ。あんた神様に仕えてんねんやろ。拜んでくれや。で、わしはそんな何もする気はあらへん。拜んでくれたらそれでええやないか。祈祷料出すからあんた拜んで」言うつて。って、自分は何か変わるかって言うたら、自分は改まる気はないんですよ。頑固がんこなんでしょうなあ、そういう時は。

それじゃおかげになるはずがない、と天地金乃神様てんちかねのかみさまは仰るわけですね。拜んで助かる神様じゃなくって、話を聞いて、そして習って、わが身、わが一家を練習帳にして稽古をして、器を作って、そうしたら、器が出

来てますから、おかげを頂いて、頂くことができます、そして初めて助かる。そういう神様ってことを仰るんですよ。

それがなかったら、こちらの言うことを聞いてないんやからね。教えたところをやってないわけやから。ま、おかげがないっていうこと。「言うことを聞かんかったらおかげないぞ」って、これ脅迫してるんじゃないやなくて、話したことを聞いてなかったら、おかげの授けようなんてないやないか、ってことを話してる。それを「言うことを聞かねばおかげがない」と言うんですよ。

拜むのを止めて、聞いて習うという心になればおかげがあるぞ。だからお広前は、ONNA 氏子の願ねがい礼場所れいほしみ、信心の稽古場所。やっぱりお稽古なん

ですよね。うん。

かといって、毎日毎日参って、毎日毎日話を聞いて言っていて、まあそれはそれで結構です。今日こうしてね、話をさしてもらって。聞いたら聞いただけ、学びがあるでしょうから、それはそれで結構なんですけど。

お広前でご祈念きねんするっていうのは、神様と対話するということもあるし、自分の内側、これまでの自分の身勝手な器の作り方、天地てんちの道理どうりから外れた考え方、生き方。それをちゃんとして、よう見て、穴あいてるところ塞ふさがんといかなわけですから。

いくら拝んでるだけでも意味はないですわね。自分の器が穴あいてる、

漏れとる。そこをよく見て、そこを塞がんかったらあかんわけです。

お取次おきりの中で聴いて頂いて、どういう心であったらええのんかっていうことを教えて頂いて、教えて頂いたことをお稽古けいこしていく。自分の心を見つめる。あいてるところ、綻ほんでるところ、破れてるところ、そこを修復していく。そしたら、自おのずからおかげは頂ける。

そこでこう、拝むっていうのは初めて、そこで意味が効いてくるわけですよ。

拜んだら神様が真まことを受け取って下さって、その真を材料におかげを作って下さるから。でも、授けようと思っても器がなかったら、授けようがない。でも、こちらが器を修復する、あるいは作り直す。そういった

ことをしていると、おかげを頂けるといふことですね。

それぞれ、年頭のみ教えを頂かれたり、これまでお取次を頂いてきた中で、自分が今、お稽古しなくちゃいけないこと。目新めあたしいところを探そうとあんませずに、これまでお取次頂いてきたことを反復練習していきんです。それを繰り返していっていう中でまた、研ぎ澄まされていくといえますかね、磨みがかれていく。

信心が磨かれていくというのは、これまで教えて頂いてきたことを、今の日々の暮らしの中で実践していく、取り組んでいく。お稽古に励む、練習する。だから、お参りをするといふのは、習い事ですからね。毎日習ったらいいんですよ。

「ご祈念さしてもらったりするっていうのはまあ、自習室ですよ。自習室を、ある意味開放しているんです。神様に拜ましてもらうっていうことはもちろん大事ですけど、それだけじゃない。自分を見つめる、ノートを書く。そうやって、自分自身の心をよう見つめていかんかったら、どこに一体穴があいてんのかいうの、分かりませんもんね。」

「どんなに指摘されても、自分で自分のことをよう分からんかったら、あんまり防ぎようがないでしょうなあ。」

「まあそう思えば、お参りして、お取次とりつぎして下さる金光様がおられて。自分にとっての、金光様がおられる。つまり、お取次して下さる

いきがみこんこうだいじんどのつぎしや

生神金光大神取次者がいるっていうことは、やっぱりありがたいことね。
何がありがたいって、人の形してしゃべってくれるっていうのがありが
たいですよね。

教典のご理解というのは、所詮ひせしは赤の他人のふんどしですからね。そ
れが自分に合うわけじゃありません。参考にはさしてもらったらいいで
しょう。学びもたくさんあるとは思いますが、でも自分に合うか
どうかは別ですしね。ぴったりの合うっていうのは、そう単純ではありま
せん。

今、こうして話をしていることだってそうですよ。でも、そこに本質的
なことがあるのはまあ思いますから、だから、話はさして頂くことはで

きるんですけど。でも、自分という一人の人間は、他の人と比べようがありません。だから、自分という人間にとって今必要な、天地の道理を教えて頂く。稽古すべきことを教えて頂く。そこを大事にしたら、信心になっていくわけですね。

信心は習い事ですから、稽古せんとあきませんね。ただ学習塾に行っても、ちっとも勉強せんかったら、そら、ただ居るだけで意味ないですもんね。

昔、私も浪人してましたから。そしたらまあ、予備校に行って自習室ありますよ。そら行ってね、机のところに行って、教科書出したり、ノート出したりしても、勉強せんかったら意味ないですわね。そこに居

る意味が。そこに八時間おったとか言うても、何も意味ないですよ。眠たくなってきたら、伏せて寝てたりとかね、そらようしてましたけど。でも目が覚めてまた勉強して、それを繰り返していったらいいでしょうね。

じゃあ自習室がなかったって、これも困ってねえ。どこでもできる言うても、家でもまあ、できるんですよ。家でもやったりしてました、受験生の時はね。でもなかなか、家でやるというのは難しい時もあります。集中して、落ち着いてこう、余計なものがない状況の中で、勉強に取り組むということは案外ないもんでね。

そういう意味じゃ、この尼崎もそれなりの都会だとは思ってますけど、

そういう中で日々を過ごすということは、雑踏の中で過ごすようなものですから、落ち着かんこともあるんですけど。でも、お広前ひろまえに参らして頂いて、静かなお広前で、神様に心を向ける、自分に心を向ける。教えと照らし合わせる。心を、命を整える、分け御霊様みたまさまを鎮めて頂へ。

やっぱりそういう時間というんのが、とっても大事ですし、そういう場を神様に提供して頂いてる、金光様にご用意して頂いているということ。これはほんとに勿体ないもったい、恵まれてることやなあと思います。

これがあるのが当たり前とは思わんことですよね。そういうお広前が存在するということ。また、自分がお広前に置いて頂いているということ、参らして頂いているということ、参ることを許されているとい

うこと。それがどれだけ、どれだけ有り難く、どれだけ恵まれているのかということ、ほんとはもっと分からんといかんですよ。ほんとに恵まれてることやと思いますよ。

まあそれが分からんのは、阿呆あほうです。少しでもお利口さんになれるように、恵んで頂いてるものを、少しでも分かるようなお互いにならしてもらわんといかなあと思います。

他人が頂いてるおかげやなくて、自分が頂いてるんですからね。自分がおかげ頂いて、他の誰でもない、私という人間、自分という人間が、恵んで頂いて、おかげ頂いてるのに、それが分かってないなんてどうしようもないやないですか、それ。

参らして頂く、聴いて頂ける。また取り次いで頂く。また、ご理解を
して頂く。神様の御心を教えて頂く。さらには寄り添って頂いて、祈っ
て頂く。無礼もお粗末も多々あるのに、それでも赦してもろうて、また
聴いて頂く。

失敗しても、足りなくっても、付いて来て下さる。「言うことを聞かね
ばおかげがない」って言われても、それでもまた、「はい」言いながらで
も言うこと聞かん人なんて、山ほどいますもんね。それでもまた、赦し
て頂いて。聞かして頂いて、ご理解下さって、寄り添って頂いて。まあ
こんな感じ、世界にもどこにもないと思いますよ。ほんとにね、甘い世

界ですよ。

そういう神様のご慈愛じあいのこもったお広前ひろまえに御縁を頂いているというところが、ほんとに勿体もったいないことやなあと思います。教祖様が始めて下さり、それが、歴代の金光様、また尼崎教会やったら、和太かずた先生。百二十四年間、一日も欠かすことなく、このお広前が開かれてあるということは、ほんとに有り難あがたいことやなあと思いますね。

朝の教話をさしてもらって、それを今の時代はね、離れてても聞くことができます。聞かしてもらって、遠くから拜む形になっても、お参りすることができなくっても、電車に乗ってても、お料理してても、何

かしながらでも聞くことができる。これもありがたいことですよね。

せつかく、色んなもの神様が用意して下さるんですから、そういったものを大事にしながら、やっぱり聞かして頂いて、仰ること、神様が仰ること、こんこうだうごんなんま金光大神様が仰ること、それをよう聞いて、言うことをよう聞いて、習って、そして日々の暮らしの中で、お稽古けいこさしてもらって、実践してもらいたいなあと 생각합니다。そして、おかげを頂いてもらいたいなあと 생각합니다。

今、こうして話をしてるのも、お広前ひろまえがあるのも、みーんな何のためか言ったら、皆さんにおかげ頂いてもらいたいだけなんですよね。そのために神様は、こういう場を用意して下さり、こういう人間を用意して

下さる。教祖様を用意して下さいようにね。

まあ、それを無駄むだにせんようにしっかりと、今日は今日一日で、お稽古に励まして頂いて、おかげを頂かしてもらいたいもんやなあと思います。

今日は今日で一日、新しいキャンバスを頂いてますから、うれしく楽しくありがたくが一番です。そうはいかんところでも、そこを見つけて、そこに光を、授かっているおかげは多々あるわけですから、そこを大事にしてね、豊ゆたからさんように、というお稽古けいこに励ましてもらいたいなあと思います。

神様が恵んで下さるおかげは、キラキラキラキラしとるんですから。
あったかい愛情でね。それをしっかりと、頂いて、咀嚼そしゃくして、身に体たいし
ていく。そこは大事なことやなあと思います。はい、どうぞおかげ頂い
て下さい。よくお参りでした。

(了)



津田昇平教話 第二話

令和三年一月二日 朝の教話

発行日 令和三年七月八日

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五

落丁本・乱丁本はお取り替え致します。
